

2-3 WTC テクニカルセッション

本年は、約 1,200 編の概要が応募され、そのうち約 670 編の論文が掲載された。論文のトピックは、トンネルや地下空間の計画、リスクマネジメント、支保工や覆工の設計、不良地山の施工、TBM（シールド工法含む）に関するものが中心で、維持管理や付属施設の安全な運用のテーマも見られた。セッション「AI と機械学習」では TBM やロードヘッダーによる掘削時の機械データを AI で分析し活用する事例報告等があった。

口頭発表は約 370 編あり、発表は質疑応答も含め計 15 分が割り当てられ、質疑の内容は、実際の現場への適用を見据えたものが多い印象であった。本年はショートプレゼンテーションと称される 5 分間の発表が各セッションの終盤に 3 件組み込まれ、端的で理解しやすい発表であった。WTC2 日目の朝のセッションでは、各技術 WG から発刊された技術レポート報告があり、日本の事例等も随所で見られた。

ポスター発表の会場は展示ブースに隣接し、約 300 編が 2 日間、18:00～19:30 の時間設定で行われた。全体で 25 台のディスプレイが設置され、発表者はディスプレイを使用し 15 分間で説明と質疑応答を行った。本年の論文集は WTC2026 のアプリからダウンロードし、論文を確認する方式が採用されたが会期期間中の運用に関してはアンケート結果を踏まえてこの方式の改善に努めていくとのことであった。

(文責：小泉悠・(国研)土木研究所)，高津知也・大日本ダイヤコンサルタント(株))